

# グラマトフィラム出番

## 横浜市・折本洋蘭園 夏開花の大型種



グラマトフィラムの出荷準備に追われる加藤さん親子（横浜市で）

【神奈川県・横浜】横浜市都筑区の折本洋蘭園で6月下旬、長い花茎が特徴のグラマトフィラムの出荷が始まった。東日本で生産する唯一の園

で、全国でも数件しかない。夏に開花する大型種で豪華な仕立てが可能。1シーズンに約2000鉢を出荷する。

## 東日本で唯一の生産

グラマトフィラムの品種は「ヒヒマヌ」で花色は緑色だけだが、ハートやスイング型に誘引して消費者の目を引き付ける。栽培サイクルは2年半ほど。

栽培で重要なのは、成長期に水や栄養を蓄えるバルブといわれる茎の基部を大きく育てること。一般的な

同園は29棟80坪の温室を管理。冬のシンビジウムを主力にグラマトフィラムは、中元シーズンに合わせて生産する。ハワイ原産のため、年間を通じて20度以上の管理が必要。光熱費

の夜温を乗り越える。栽培で重要なのは、成長期に水や栄養を蓄えるバルブといわれる茎の基部を大きく育てること。一般的な洋ランよりも肥料を多めに与える独自の肥培管理をする。花芽分化のタイミングで一度かん水を止めると、花茎の長さがそろうという。出荷2週間前から花芽の本数に合わせて仕立て方を決め、支柱に沿って誘引していく。

園主の加藤悟さん（63）は「出荷は7月中旬までの短期間。楽しみに待っている人は多い。仕立てだけでなく涼し気な雰囲気も魅力で、ここ数年でテーマパークの入り口などにも飾られるようになった。色味を出すために同時期に生産するアンズリウムとの寄せ植えも最近は人気がある」と話す。